〔曲 名〕Overture to "Oberon"

「オベロン」序曲

〔曲 種〕Ouverture

序曲

〔作曲者〕Carl Maria von Weber

カール マリア ウェーバー

〔編 曲〕Jiro Nakano

中野二郎

1826年ウェーバーの最後の作で、女王ティターニアとけんかした妖精の王オベロンはこの地上のあらん限りの苦難をなめたのち、
その愛を全うしてめぐり合う２人の愛人が現れるまで、妻と会わぬことを誓う。
そしてかれは、魔法をもってヒュオン公にバクダッドの女王を救出させ、数奇の道をたどらせて、めでたい結果を与えるというのが筋の概略である。
このもっとも非現実的なロマン的な題材を、神秘な筆致でもっておとぎのような雰囲気で描き出し、
さらに東洋の国を舞台として効果的にエキゾティックな情緒を織りこんで、ロマン主義音楽の不動の地盤を固めた。
とくに「オベロン」序曲は、すべてそのオペラ中の主題を盛り合わせて交響詩的な序曲としたことによって、
この分野における先駆的な名作となり、今なおその光輝を失わない。
さて、Adagio sostenutoの序奏は20小節あまりの短いものであるが、魔法の幻影と妖精の想像を巧みに描いてあますところがない。
魔法の角笛（第一ホルン）に姿なき妖精の声（弱音器をつけたヴァイオリン）が答え、
第６小節では、木管（フルート、クラリネットのppp）のスタッカート音型が、風のような妖精の群を思わせる。
つづいて第３幕中の行進曲が踊る妖魔のように奏され、とつじょ起こる全管弦の強奏和音の一撃によって、すべての幻影は消え去り、しばし沈黙。

主題はAllegro con brio 二長調4/4。

ヒュオンの姿を思わせる第一主題は第一ヴァイオリンの十六分音符パッセージをもって勢いよく発展し、急に魔法の角笛が鳴り妖精が飛び歩く。

つづいて、ヒュオンのアリアがクラリネットの独奏で現れ(2)さらに王女レチアのアリア「わが君、わがヒュオン」の主題が歓喜するように奏される(3)。

マンドリン古典合奏曲集22集より